

観光案内人便り

隣町「国分寺跡」を訪ねて

六月の梅雨晴れ隣町迄散策しました

6月13日、研修会として新コースのガイドツアーを開催、今村案内人を先頭に、湊・中山・金田・藤谷・河本の6人が参加、今後のガイドツアーに組込めるか？参加者の思いはそれぞれだった。

国分寺崖線の高台に潜む沖本カフェ。2020年の秋開設沖本姉妹が遺贈した豪邸。



1333年新田義貞が討幕の兵をあげ、分倍河原で鎌倉軍本陣に夜討ちの為にこの地で休息、夜明けを知った故事にちなんで命名。右が国分寺、左が府中両坂に挟まれて「多摩蘭坂」、国立開発に鎌倉街道を分断した坂でもある。それでも長い行列でした

国立観光案内人
行動記録

第153号
2022.6.13

新コース研修

右に「伝鎌倉街道」
ここを下ってくると、下の黒鉄公園へ



国分尼寺あとの礎石が残され
記念碑前で思い出の写真



左は「真姿の池」848年
下は「お鷹の道」と湧水



右は国分僧寺の金堂跡地、
下は国分寺1335年創建



編集後記
今回は国立から国分寺崖線沿いを歩いて、国分尼寺跡、国分僧寺跡、国分寺十薬師堂、東山道武蔵路跡を追いかける企画であったが矢張り国分寺が主体となったのは、止むを得ないかったのかもしれない。(河本

元中央鉄道学園跡地で1987年国鉄民営化の際、債務返済の為売却されそのお陰で東山道武蔵路を300mに渡り再現。左手手前には都立多摩図書館、奥に東京都公文書館が建つ。



東山道武蔵路跡の説明書きを熱心に見つめる。武蔵路は上野国(現群馬)から武蔵国府に至る往還路で幅12mの道路だった

国分寺薬師堂、1335年新田義貞が寄進。薬師如来像を祀り、毎年10月10日開帳。

